

みんなづくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

あいさつ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5048

あいさつ

国立民族学博物館（みんぱく）は創設39年をむかえ、調査研究、博物館事業、大学院教育、そして広報・社会連携など、さまざまな活動を展開しております。2004年4月からは大学共同利用機関法人・人間文化研究機構の一員となり、機構内の他の5機関と連携して人間と文化についての総合的研究を推進しています。

みんぱくは、世界の民族、社会や文化などを研究対象とし、フィールドワークにもとづいて、文化人類学と民族学およびその関連研究分野の基礎的かつ理論的研究をおこなってきました。グローバル化によって、人類は生活や社会のしくみだけでなく価値観にいたるあらゆる面で未曾有の変化に直面しています。この動きの実際とプロセス、そして将来の方向性を現地での参与観察にもとづいて明らかにすることが文化人類学の今日的課題といえましょう。

文化人類学と民族学の研究所であるみんぱくは、調査研究の成果を現地の人びとや社会と共有し、ともに議論し、考える「フォーラム型」研究をめざしています。また、異文化をより深く理解するために、物質文化、生活様式、芸能・音楽などの資料や種々の情報収集も積極的に進めてきました。現在、33万点の標本資料、7万点の映像・音響資料、そして65万点の文献図書資料を所蔵し、学界や一般の人びとにも公開しています。また、2008年度からは本館展示の新構築に着手し、これまでにオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、西アジア、音楽、言語、日本の文化そしてインフォメーションゾーンの展示コーナーが新しい姿を見せています。

『研究年報』は、みんぱくの研究者の多方面にわたる研究調査から、国際研究集会、国際学術交流、大学院教育、社会貢献にいたる多方面にわたる活動について知っていただくために編集されました。本誌は大学共同利用機関としての活動の集大成といえます。一方、みんぱくのウェブサイトには、本誌の情報にくわえ、教員の研究活動、研究集会や展示を含め、種々の行事予定についての最新の情報を掲載し、『研究年報』の内容を補足しています。

本誌によって、博物館機能をもった文化人類学と民族学の研究所および大学共同利用機関としての研究センターとしてのみんぱくの役割をご理解いただき、今後も本館にたいしてみなさまからのご助言とご支援をお願いする次第です。

2014年2月
国立民族学博物館長
須藤健一

